日本海事史学会 第444回 例会（Web例会#61）　参加費無料

あらためてオモキ造りを考える

―船体構造と接合技術を中心に―

■講師：廣瀬（ひろせ） 直樹（なおき）

2026年11月21日（土）14:00～16:00　Zoomにて開催（ルームオープン 13:30）

富山湾のドブネ（昭和30年代）

オモキ材の粗木取り作業

ドブネ船首部材の接合作業

ドブネにみる木製カスガイ「チキリ」

かつて日本海沿岸地域に色濃く分布していた造船技術がオモキ造りである。オモキ造りとは、船底板の左右両端に刳材オモキを組み込んだ構造をいい、ウルシによる接着や木製接合具であるチキリとタタラの使用など、特徴的な接合技術が付随する。

近年、京都市伏見区の淀水垂大下津町遺跡で出土した川船には、オモキ状の刳材が組み込まれており、日本海沿岸地域のオモキ造りを考える上でも一石を投じるものであった。

今回の報告では、オモキ造り特有の接合技術についてその歴史を含めて振り返るとともに、船体構造やオモキ造りの漁船ドブネに関する新発見の資料などを通じて、あらためてオモキ造りについて考えてみたい。

■**廣瀬 直樹（ひろせ なおき）日本海事史学会会員**　1977年富山県生まれ。専門は考古学・民具学。平成13年度より氷見市立博物館の学芸員を務める。平成15年、氷見市内の船大工とともに和船建造技術を後世に伝える会を結成し、調査・研究を行う。平成23年、「富山の和船～富山湾沿岸地域とその周辺の海船・川舟～」で第25回日本民具学会研究奨励賞を受賞。現在、氷見市立博物館主査（学芸員）。

●**関心をお持ちの方ならどなたでもご参加いただけます。メールでお申し込みください。**
※希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。
お申込みいただいた方には11月18日（水）までにご連絡いたします。

●**会員にはメールでご案内をお送りしています。**
メールが届いていない方は、右の申込先までお問合せください。

■申込〆切：2026年11月17日（火）正午（12:00）
■申込先：kaijishi.web@gmail.com（担当：大野）
メールの件名を「日本海事史学会Web例会申し込み（非会員）」として、本文にはお名前をお書きください。

［今後の開催予定日　例会@駒場：12月12日（土）／Web例会：1月23日（土）・2月27日（土）］

日本海事史学会は、海事一般に関する歴史・法律・民俗・水産・考古・船舶・航海・海運など、海事史だけにとどまらずひろく海の人文学、社会科学等あらゆる分野に関心を持つ学界や在野の研究者の方々の交流をはかる総合研究の“場”です。

【主な活動】専門学術誌『海事史研究』の発行（年1回）／総会（年1回）・例会（8月と総会開催月を除く年10回）など

日本海事史学会 The Japan Society for Nautical Research　ご入会随時受付中　https://kaijishi.jp/

〒104-0043　東京都中央区湊2丁目12番6号 湊SYビル3F 日本海事広報協会気付　メール：kaijishi.info@gmail.com